≪英語≫

発話へつながる学習展開の工夫
～５学年におけるチャンツＣＤ作成及び活用を通して～

那覇市立城南小学校　教諭　宮里　寿子

Ⅰ　テーマ設定の理由

国際化が急速に進展している現在，２１世紀を担う子どもたちには日本人としての自覚を持ち，主体的創造的に生きていくための力を確実に身につけさせることが重要である。とりわけ，国際共通語となっている英語によるコミュニケーション能力が身につくことは，子どもたちにとって生きる力につながる重要な要素と考える。

本市においては平成１５年度より３カ年間文部科学省研究開発学校の指定を受け，市内全３６小学校で英語を教科として設置した。「英語に慣れ親しみ，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する」を教科目標と定め，英語を使って「聞くこと」「話すこと」を中心とした言語活動の授業展開がなされている。

英語の授業実践は担任と英語指導員の協同で進め，児童の日常生活における身近で簡単な英語を扱い，楽しく英語に慣れ親しむような活動を行っている。また高学年になると，「電話をしよう」「道をたずねよう」「料理を作ろう」など，英語によるコミュニケーション活動を多く取り入れた題材が増えてくる。しかし，これまでの授業実践を振り返ると，英語によるコミュニケーション活動の発話場面になると児童は声が小さかったり，または，躊躇し発話しなかったりということが度々あった。そのことは，英語を「聞くこと」の活動が十分でなくその結果，児童にとって英語に親しめず自信が持てず発話できないのが原因ではないかと考える。このことから，児童にたっぷり英語を聞かせることにより児童が英語に慣れ親しみ，自信を持って発話しようとすることにつながるであろうと思われる。

そこで，児童が英語を聞いて練習し発話につなげる実践として，チャンツ教材を取り入れることが効果的ではないかと考えた。チャンツとは，楽しいリズムに乗って繰り返し何度も英語を聞くことができる教材である。チャンツを活用することで「聞くこと」の活動が充実し，児童が英語に親しむのではないかと考える。そのチャンツを教材としてＣＤ作成し学習展開で活用方法の工夫を図ることで，児童は自然に英語に慣れ親しみ発話活動へスムーズにつながることになると考え，本研究のテーマを設定した。

Ⅱ　研究目標

小学校英語学習において，英語の音声に慣れ親しむための教材チャンツ CD 作成及び活用を通して，発話へつながる学習展開の工夫・改善を図る。

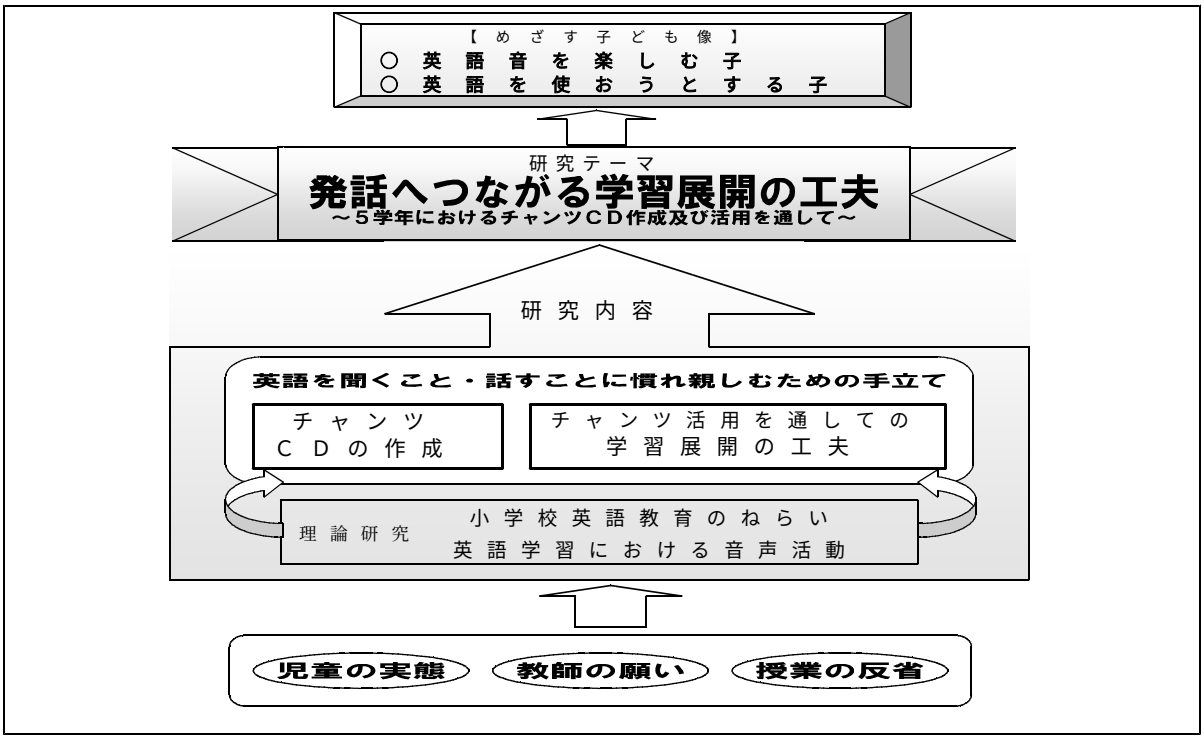
Ⅲ　研究方針

1　小学校段階にふさわしい音声を重視した英語学習について理論研究する。

2　「小学校英語科学習指導案例集　第５学年（那覇市教育委員会作成）」の英語表現を参考に，児童が楽しく英語に慣れ親しむ第５学年のチャンツＣＤ教材を作成する。

3　チャンツ活用を通して，学習展開の工夫・改善を図る。

Ⅳ　研究構想図



Ⅴ　研究の内容

１　小学校における英語教育

(1) 音声を重視した英語学習

文科省発行『小学校英語活動実践の手引』に小学校における英語活動の位置づけは「国際理解教育の一環として行われること」とし，そのねらいは「言語習得を主な目的とするのではなく，興味・関心や意欲の育成」とある。すなわち小学校段階では，英語という言語そのものの習得より英語を使おうとする意欲や態度，英語を使って外国の人と関わろうとすることや外国の人の暮らしなどに関心を持つことをねらいとする。

また，指導に関しては「英語をたっぷりと聞くことによって，英語の音声に慣れることが大切」なので「音声を中心とした指導をすることが必要」とある。つまり，子どもが英語に慣れ親しんでいく過程は，児童が英語の音声を十分に聞き，英語をまねすることを通して自信を持って発話するといった，音声によるコミュニケーションに慣れていく経緯が最も自然な学習の過程と捉え，音声中心の指導が大切としている。

金森強は，「『聞くことの絶対量』を増やすことこそが入門期の外国語学習の基礎的な力を育む活動として最も重要なことである。これまでの日本語教育では十分持てなかった活動であり，小学校から英語が始まることで最も期待できること」としている。

(2) 那覇市における小学校英語科目標及び「聞くこと」「話すこと」の到達目標

平成１５年度より３カ年間，文部科学省指定研究開発学校としての本市における小学校英語科の目標及び「聞くこと」「話すこと」の到達目標は，表１の通りである。到達目標は，コミュニケーションへの関心・意欲・態度，コミュニケーション力（英語を聞くこと，話すこと），外国の言葉・文化に親しむの３観点から構成されている。

表１　那覇市における小学校英語科の目標及び各学年の目標

小学校英語科の目標		
①　積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ②　英語音の特徴（音声・リズム・イントネーション）に慣れる。 ③　英語を聞くことや話すことに慣れ親しみながら話し手の意向を理解したり，英語による簡単な言い回しやコミュニケーションの仕方を身につける。 ④　自国や外国の文化や生活に関心を持ちながら，他者を理解し協力しあう態度を身に付ける。		
低　学　年	中　学　年	高　学　年
①歌やリズム遊び等を通じて英語に慣れ親しむ。 ②英語を聞いて全身で表現することを楽しむ。 ③外人と分け隔てなく，自然に関わろうとする。	①歌やリズム遊び・簡単な会話を通じて，英語を聞いたり，話したりすることに慣れる。 ②英語を聞いたり，話したりする活動を楽しむ。 ③言語や生活習慣の違いに気づき，積極的に外国人に関わろうとする。	①英語への興味・関心を深め，身近なことを聞いたり，話したりしようとする。 ②様々な人と英語でコミュニケーションすることを楽しむ。 ③言葉や生活習慣の背景にある考え方や違いに気づき，思いやりの心を持って外国人と付き合える。

「聞くこと」の到達目標			
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	コミュニケーション力	外国の言葉・文化に親しむ
低学年	○相手と楽しく触れ合い，相手を受け入れている。 ○ルールを守って，コミュニケーション活動を楽しんでいる。 ○相手と進んでコミュニケーション活動を図ろうとしている。	○英語の音やリズムに親しみながら，聞いている。 ○初歩的な表現や身近なものの名前を聞き取ろうとしている。 ○相手の質問や指示に対して，動作などで応じようとしている。	○身近にある英語に興味を持つ。 ○外国の遊びや行事に興味を持つ。 ○英語の絵本や歌に興味を持つ。 ○様々な人々と分け隔て無く自然に関わろうとしている。
中学年	○マナーを守って，コミュニケーション活動を楽しんでいる。 ○話し手の顔を見て，聞こうとしている。	○英語の文を音の流れのままに親しみながら聞こうとしている。 ○聞いている内容が大まかに理解している。 ○相手の質問や指示に対して，それにふさわしい反応をしようとしている。	○外国の遊びや行事に興味を持つ。 ○英語の絵本や歌に興味を持ち親しんでいる。 ○外国の人や文化に触れ関心を示す。
高学年	○マナー等の礼儀をわきまえ，自ら進んで活動し，コミュニケーション活動を楽しむ。 ○話し手が何を話そうとしているのかを関心を持って聞いてる。	○話し手が何を言っているのか，大まかな内容を推測しようとしている。 ○聞いている内容が大まかに理解している。	○外国の人，文化，伝統等に興味・関心を持つ。 ○自国や外国の生活や文化の違いを認め，理解しようとしている。

「話すこと」の到達目標			
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	コミュニケーション力	外国の言葉・文化に親しむ
低学年	○相手と楽しく触れ合い，相手を受け入れている。 ○ルールを守って，コミュニケーション活動を楽しんでいる。 ○相手と進んでコミュニケーション活動を図ろうとしている。	○単語や言葉を聞こえるままにまねて，発話しようとしている。 ○初歩的な表現や身近なものの名前を言おうとしている。 ○身振り手振りなどを交えるなどして，自分の思いを伝えようとしている。	○身近にある英語に興味を持つ。 ○外国の遊びや行事に興味を持つ。 ○英語の絵本や歌に興味を持つ。 ○様々な人々と分け隔て無く自然に関わろうとしている。
中学年	○マナーを守って，コミュニケーション活動を楽しんでいる。 ○身振りや言葉を使うなどして意思を伝え，相手と関わろうとしている。 ○相手に質問したり，相手との受け答えを楽しんでいる。	○簡単な質問に対して，自分の考えで答えようとしている。 ○身振りや親しんだ言葉を用いて，発話している。	○外国の遊びや行事に興味を持つ。 ○英語の絵本や歌に興味を持ち親しんでいる。 ○外国の人や文化に触れ関心を示す。
高学年	○マナー等の礼儀をわきまえ，自ら進んで活動し，コミュニケーション活動を楽しむ。 ○相手を認めながら，自分の思いを伝えようとしている。	○簡単な質問に対して，自信を持って答えようとしている。 ○自分が伝えたいことを慣れ親しんだ英語で相手に伝えようとしている。 ○聞き慣れた表現で，相手の意向等を確かめたり，依頼したりしている。	○外国の人，文化，伝統等に興味・関心を持つ。 ○自国や外国の生活や文化の違いを認め，理解しようとしている。

2　英語学習における音声活動について

金森強は，「児童は，大人に比べて，文字を頼らず音声だけで理解しようとする力があるため，聞くことの基礎力を育てやすい。」としている。小学校英語教育において，日本語とは異なる英語の音の流れ，すなわち，英語固有の音の強勢やイントネーションによって生じる英語のリズムに慣れ親しませることが，音声活動において重要となる。そこで，表２に，小学校段階にふさわしい音声活動例を挙げる。

表２　小学校段階にふさわしい音声活動例

活動	活　用　意　義	指導の工夫
songs （歌）	○リズム，イントネーション，発音や英語の音の変化が自然に身に付く。 ○授業が始まるときに行うことで，自然に児童を英語の世界へ導く。 ○学習する語彙や文型を身に付けやすい。 ○クリスマスやイースター，ハローウィンの行事等の歌で，異文化について学ぶことができる。	・Finger play や動作をつける。 ♪ Hokey Pokey , Finger Family　等 ・歌詞の一部を抜いて歌う。または，歌詞の一部だけ歌う。 ♪ Bingo, Seven Steps, 12 Monthes　等 ・替え歌を作る。　♪ Hello Song ・ピクチャーカードなどの視聴覚教材を活用する。
chants （チャンツ）	○英語特有のリズム，イントネーションが自然に身に付く。 ○相手との掛け合いで構成されていることが多いので，楽しい。 ○リズムを使い，繰り返して行うので学習する語彙や文型が身に付けやすい。	・指を鳴らしたり，リズムボックスや手拍子に合わせてリズムを刻む。 ・チャンツのスピードを変えていく。 ・ピクチャーカードなどの視聴覚教材を活用する。 ・指導者と児童，児童同士の掛け合い，一斉，グループ，ペアなど活動の場を変えていく。
picture books （絵本の読み聞かせ）	○英語特有のリズム，イントネーションが自然に身に付く。 ○同じ単語やパターンの繰り返しで構成されている絵本が多いので，何度も同じ英語表現が聞ける。	・英語のモデルの英語指導員がいない場合は，ＣＤ等を使用する。
demon-stration （デモンストレーション）	○学習する英語が，どんな場面で使うかなどの状況がわかりやすい。 ○児童にとって一番身近な学級担任と英語指導員との英語のやりとりを聞き，英語表現に慣れる。	・場面の状況が把握しやすいように，視聴覚教材（実物等も含める）を使用する。
game （ゲーム）	○楽しみながら，英語表現に触れ，慣れる。 ・カルタ　・ビンゴ ・○○バスケット ・ジェスチャーゲーム ・Simon Says	・日本でも，馴染みのあるゲームやクイズを取り入れると，興味・関心も高く，ルールも知っているので，活動しやすい。

3　チャンツについて

(1) Chants（チャンツ）とは

1979 年にニューヨーク大学のキャロリン・グレアムが第二外国語の教授法として，「Jazz Chants for Children」を出版したことがきっかけとなり，日本でも音声指導法の１つとして認知されるようになった。リズムに合わせて英語のイントネーションや強勢，リズムを自然に学習させようとする指導法である。機械的になりがちな文型や発音の反復模倣練習を楽しく効果的に行うことを意図したものである。

英語と日本語の発話におけるリズムは異り，日本語は平坦なリズムで，言葉の重要性に関わらず１つ１つの語の長さは同じである（図１）。しかし，英語は図２のように強弱のイントネーションとリズムであり，大切な音は長く，それ以外の言葉は短

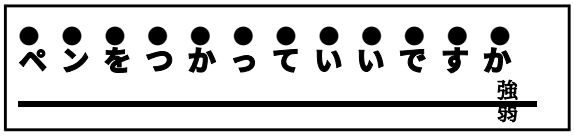


図１　日本語のリズム（音節拍リズム）

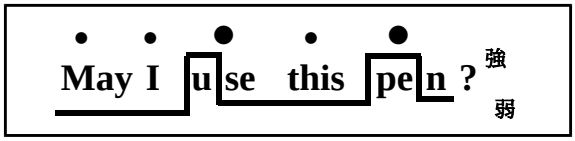


図２　英語のリズム　（強勢拍リズム）

く速く発音する。つまり，強勢のある部分にリズムができる。

阿部フォード恵子は，「聞き取ってもらわなければ伝わらない重要な部分が強調されるのが英語の特徴」とし，チャンツの特徴を「英語のリズム，ストレス，イントネーションを崩さず，話し言葉がそのまま耳に入ってくる。音が結合する部分があったり弱くなってほとんど発音されない所があるなど，英語のあらゆる発音が含まれている。」とする。また，効果に「英語のリズムを体全体で感じ，英語を「『chunk（かたまり）』としてとらえる。」「リズムに乗って声を出していると，自然に英語を話す雰囲気になる。」等を挙げる。このことから，リズムに合わせて英語の特徴的な音を繰り返し聞けるチャンツは，音声指導として有効であると考える。

(2) チャンツＣＤ作成及びチャンツ CD を活用した学習展開

①チャンツＣＤ作成

市販のチャンツＣＤ教材は数多くある。楽しいリズムに乗って，日常的な英語表現から物語の朗読に至るまで幅広い種類のチャンツ CD 教材がある。

しかし，例文の英語表現が児童にとって慣れ親しめなかったり，リピートの練習ができる構成になっているものは少ない。

そこで，那覇市小学校英語カリキュラムをもとに図３で示すよう，「聞くこと」の活動の設定，例文提示後のリピート（繰り返し）活動の設定，練習のためのブランク（児童発話練習）の設定，及びチャンツの速さの変化の４点を組み込み，チャンツＣＤを作成する。さらに，自動音楽演奏機能がついたリズムボックスを使用することで，児童の興味・関心が高まるよう工夫した。

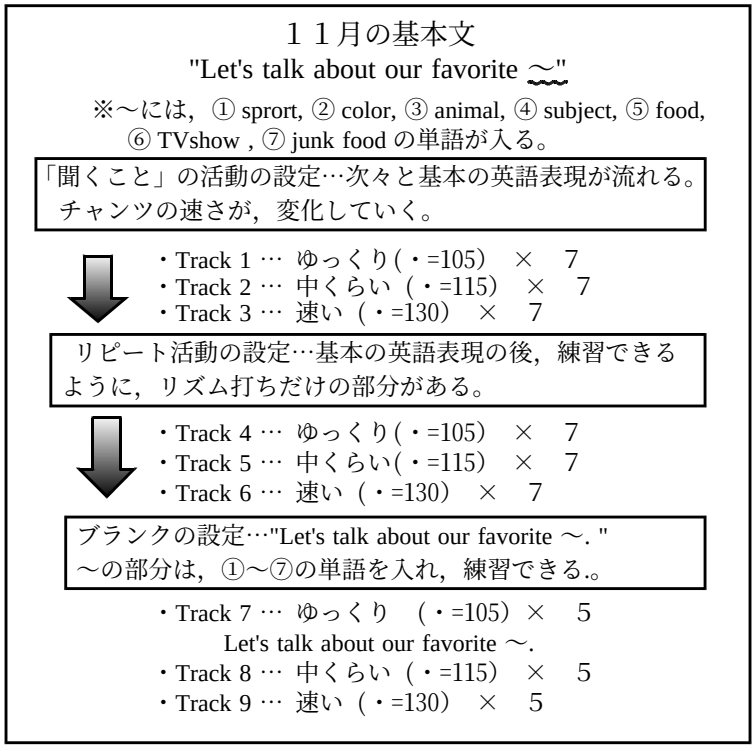


図３　チャンツＣＤ作成の実際

②５学年で取り扱う英語表現一覧

チャンツ CD 教材を作成するため那覇市小学校英語カリキュラムをもとに，５学年で学習する英語表現一覧表を作成した。(表３)

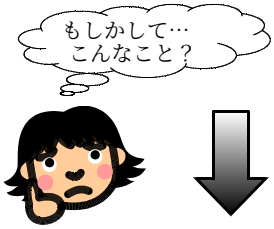
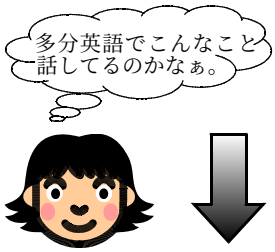
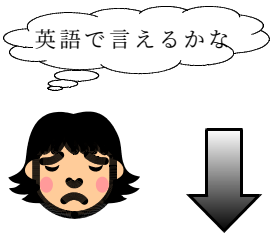
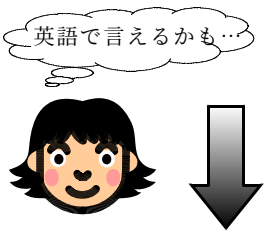
表３　５学年で取り扱う英語表現一覧

月	学習する英語表現		学習する英語表現
5	・What sport do you like ? ・What subject do you like ?	9	・Where is it from ?　It's from ～ ・Wash the vegetables. / Cut the vegetables.
6	・What's your phone number ?　It's ～. ・This is ～. May I speak to ～ ? ・Let's go camping!		・Where is a pizza parlor ?
		10	・Go straight. / Turn left. / Turn right ・Let's talk about our favorite ～.
7	・Do you have a ～? ・I get up at ～ ・I have breakfast at ～. ・I go to bed at ～.	11	・We like ～ the best.
		2	・May I help you ? /　～,　please. Here you are.・What size ? It's ～ /　How much ?　It's ～

③　チャンツ CD を活用した学習展開例

チャンツＣＤを活用しての学習展開例を，教師の支援，予想される児童の反応の視点を取り入れ表４に示した。

表４　チャンツＣＤを活用しての学習活動の展開例

Stage	学 習 活 動	教 師 の 支 援	予想される児童の反応
集中して聞く	1，チャンツＣＤを聞く。 ①ゆっくり ②中ぐらい ③速い，の順で聞く。	○「何のことについてなのか想像してごらん。」 ※児童の様子を見ながら，チャンツの速さを変える。	
	2，チャンツＣＤを聞く。 ①ゆっくり ②中ぐらい ③速い，の順で聞く。	○チャンツと関連のあるピクチャーカードをチャンツの順に提示していく。 ※児童の様子を見ながら，チャンツの速さを変える。	 ※カードをヒントに推測している。
	3，チャンツＣＤを聞く。 ①ゆっくり ②中ぐらい ③速い，の順で聞く。	○クイズ形式で行う。 ○「チャンツの聞こえる順に，絵を指さしてごらん」 ○「チャンツの聞こえる順に，絵を並び替えてごらん。」	 ※大体の内容をつかむ。
練習する	4，チャンツＣＤの後に英語表現をリピートする。 ①ゆっくり ②中ぐらい ③速い，の順で練習する。 ○クラス全体→ グループまたはペアで。	※「One，Two」等の拍子を取りながらリピートするタイミングを図り，児童をリードする。 ※児童と一緒になって大きな声で，英語表現をリピートする。 ※児童の様子を見ながら，チャンツの速さを変える。	 
発話する	5，リズムボックスを利用して発話する。 ６，発話する	※個に応じた支援を行う。なかなか発話しない子と一緒になってチャンツの練習などを行う。	

Ⅵ　授業実践

1　単元名　　What sport do you (5-3) like the best ?

2　指導目標

(1) 英語でコミュニケーションすることを楽しむ。

(2) 既習の英語表現を使って，クラス内の人気ランキングについて，インタビュー活動を行い，その結果を英語で発表することで，英語が使えることを実感する。

3　単元について

(1) 題材観

今回の単元"What's the best one ?"は，英語学習において児童が初めて経験する発表形式 Show and tell の活動である。児童にとって身近なスポーツ，教科及びテレビ番組の人気ランキングについて英語でインタビュー活動を行う中で情報収集し，その結果を英語で発表するという，高学年の活動に適した単元であると考える。

(2) 指導観

本単元は発話活動が多いが，これまでの本学級の授業を振り返ると，児童の英語による発話活動になると躊躇する場面が度々あった。それは，英語を「聞くこと」の活動が十分でなかったためだと思われ，英語を使っての発話活動をスムーズに行うためには，「聞くこと」の活動を十分に行う必要があると考える。

そこで，自作チャンツＣＤを作成し学習展開の中で効果的に活用することで，児童に英語を聞かせ児童が英語に慣れ親しみ，自信を持って発話することにつなげたい。

4 指導計画と評価計画（５時間）

	目標及び活動内容	具体的な評価 評価方法 観察法・ふりかえりカード	評価の観点 コミュニケーションへの関心・意欲・態度	評価の観点 コミュニケーション力（聞く）・話す）
1時	○単元の学習内容を知り，学習の見通しを持つ。 オリエンテーション ・単元のねらい ・活動内容の説明	・単元にねらいを理解する。 ・活動内容を理解する。	○	
2時	○既習の簡単な英語使って，インタビュー活動を行い，クラス情報集めを楽しむ。 ・自作チャンツＣＤを使って，英語でインタビューの仕方，答え方の練習をする。 ・英語でインタビュー活動をする。	・英語音をリズムにのり，親しみながら，聞いている。 ・進んで活動し，コミュニケーション活動を楽しんでいる。	○	○
3時	○英語を使ってのコミュニケーションを楽しみながら，グループで発表の準備をする。 ・ランキング表作りをする。 道具の貸し借り等を英語を使って行う。	・進んで活動し，コミュニケーション活動を楽しんでいる。	○	
4時	○自作チャンツＣＤを活用して，グループで英語を使って，発表の準備をする。 ・自作チャンツＣＤで，発表の練習する。	・英語音をリズムにのり，親しみながら，聞いている。		○
5時 本時	○英語を使って，コミュニケーションを楽しむ。 ○英語を使って，人気ランキングを発表する活動を通して，「英語が使える」ことを実感する ・自作チャンツＣＤで，発表の練習する。 ・発表する。 各グループにわかれて，クラスの友達の好きなスポーツ，動物，お笑い芸人等について英語で発表し，それを聞き合う。	・英語音をリズムにのり，親しみながら，聞いている。 ・話し手が何を話そうとしているのか関心を持って聞いている。 ・自分が伝えたいことを慣れ親しんだ英語で，相手に伝えようとしている。	○	○ ○

4　本時の学習

(1) 題材名　　英語を使って，一番人気があるものを紹介しよう

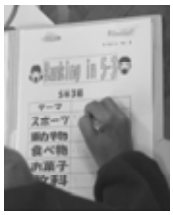
(2) 目標

①英語を使って，コミュニケーションを楽しむ。　【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

②英語を使って，クラス内の色々なものの人気ランキングを発表する活動を通して，英語を「聞くこと」及び「話すこと」に慣れる。　【コミュニケーション力】

(3) 展開

	学 習 活 動 と 内 容	教 師 の 支 援	留意点 ☆評価
導入 7分	1, あいさつする。 2, 今日の曜日，日付，天気を確かめる。 What day is it today？ など 3, 歌を歌う。Let's sing a song. ♪ If your happy	○英語学習の雰囲気作りをする。 Let's start today's lesson. ○横一列の構成メンバーを考えながら，質問事項を与える。 ○ジェスチャーを加え一緒に歌う。	○ Englishclass rule に基づいて，お互いで 聞き合う。
展開 15分	4, 今日の活動内容を確認する。 ○自作ビデオ「What's the best one?」 を見る 5, 教材チャンツＣＤを活用して，繰り返し聞き，英語での発表の練習をする。 (1)その場で練習する。 ①チャンツを聞く。 ②チャンツを聞き，そのあとに練習する。 ・Let's talk about our favorite ～. ・No.4 is ～.　・No.3 is ～. ・No.2 is ～.　・No.1 is ～. ・We like ～ the best. (2)発表のデモンストレーションを見る。 (3)各グループで練習する。 ①チャンツのブランクの所に自分たちの発表事項を入れ，発話する。 ②リズムボックスを活用して，発話する。 	○今日の活動は発表活動であることを確認する。 ・Let's check the video. ・Today's lesson is "Show and tell". ○児童が推測しやすよう，チャンツの文と一致したカードを黒板に提示する。 ○クイズ形式で，児童にチャンツの文と一致した黒板のカードを選ばせながら，何度もチャンツを聞かす。 ○児童の反応を見ながら，チャンツのリズムスピードを上げる。 ○児童と一緒に，発表の仕方のデモンストレーションをする。 ○各グループを巡視及び支援する。 ○ "Show and tell" 活動に入る前に，ビデオで，発表時の３つの約束を確認する。 ①発表者は大きな声で。 ②聞き手は，しっかり聞く。 ③発表後は，賞賛する。	○オリエンテーション用ビデオ （自作教材） ○自作チャンツＣＤ ○ピクチャーカード ☆チャンツをしっかり聞いている。 （聞くこと） ☆チャンツの後に英語で発話している。（話すこと） ＜方法＞ ・観察法

16 分	6, 各グループで人気ランキングを発表する。 ・①…動物　②…色, ③…お菓子　④…テレビ番組 ⑤…教科　⑥…食べ物 ⑦…スポーツ ⑧…お笑い芸人 ※発表を聞いている児童は，各自のワークシートに，各グループが発表した１番人気があるものを記入する。	 ○英語表現の細かい訂正はしない。 ○発表グループには励まし，終了後には賞賛する。 ワークシート NO.3 	☆英語を使って，コミュニケーションを楽しんでいる。 （関・意・態） ☆話し手が何を話そうとしているのか関心を持って聞いている。 （聞くこと） ☆自分が伝えたいことを慣れ親しんだ英語で，相手に伝えようとしている。（話すこと） ＜方法＞ ・観察法 ・振り返りカード ワークシート NO.3
まとめ ７ 分	7，グループの１番人気なものを英語を使って，確認する。 ○本時の感想を発表する。	○各グループの１番人気があるものを英語で質問し，児童が答える。 What sport do 5-3 like the best ? ○児童を賞賛する。 That's all for today	

Ⅶ　結果と考察

検証

教材チャンツＣＤ作成，及び活用した学習展開の工夫を図ることで，児童は，自然に英語表現に慣れ親しみ，発話活動へとスムーズつながるであろう。

【手立て１】**教材チャンツＣＤ作成において**

自作チャンツＣＤ活用前後でのアンケート結果から，児童の変容や作成したチャンツ CD についての児童の感想から検証する。

【結果１】

これまでも英語の授業で英語に慣れ親しませるために手拍子に合わせてチャンツ活動を取り入れたが，本研究では那覇市小学校英語カリキュラムをもとに自作の教材チャンツ CD を作成した。

教材チャンツ CD を作成するにあたっては児童の興味・関心が高まるように自動音楽演奏機能があるリズムボックスを使用し，聞くこと，リピート，ブランク及びチャンツの速さの変化の設定の工夫を図った。

表５はチャンツＣＤを作成するにあたって工夫したポイントについて，児童から活用後感想をとりまとめたものである。図４は，自作チャンツ CD 活用前後におけるチャンツ活動への意欲・関心についてのアンケートの結果である。

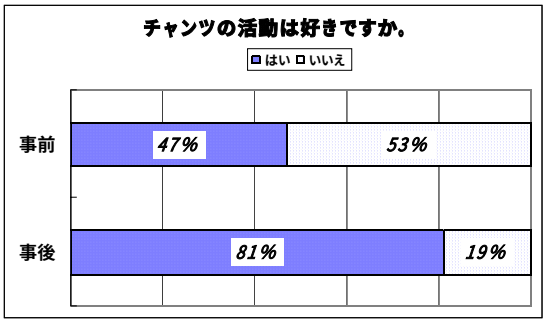


図４　チャンツ活動への意欲・関心

表５　自作チャンツ CD についての児童の感想

チャンツ CD 作成時の工夫点	自作チャンツ CD についての児童の感想
「聞くこと」の活動の設定	・聞くだけのチャンツがあったから，ゆっくり覚えられた。 ・英語のことを詳しく考えたり，聞く時間があって，よかった。 ・心の中で繰り返せていい。
リピート活動の設定	・リピートの部分があると，練習できる。 ・自分で話すと覚えやすくなる。 ・聞いてから言うので，練習できた。 ・ダニエル先生の後で、言いやすかった。
ブランクの設定	・自分の発表の時に役立った。 ・自分たちが英語で話すところの練習ができたので良かった。
チャンツの速さの変化	・ゆっくりはわかりやすくて，速くしたら面白かった。 ・遅いのがあったから聞けた。 ・３つのスピードがあって，いろいろなのに挑戦したくなって，とても楽しい。 ・次のレベルに挑戦できることが面白い。
リズムボックスの使用	・手拍子よりも言いやすい。 ・リズムがあるから，覚えやすい。 ・リズムがあったから，やりやすい。 ・リズムに乗って，言えた。

【考察１】

表５の児童の感想をみると，「聞くこと」の活動設定についてはしっかりと英語表現が聞けること，また，リピート活動設定では基本例文の後すぐに練習できる利点を挙げている。市販の CD の場合，リピートの練習がすぐにできる構成になっているものが少ないことから，例文の後すぐにリピートの練習ができるようリズム打ちだけの部分を入れた。これについて，児童から「聞いてすぐ言えること」「練習の部分があるからよかった。」等の利点を挙げていた。

また，ブランク（児童発話練習）設定については，例文を使って自分のことを表現・練習することができたよさを挙げ，次の発話活動に役立ったとしている。

英語表現の速さが一定である市販のチャンツＣＤとは違い，今回はチャンツの速さをゆっくり(・=105)，中くらい（・=115)，速い（・=130）の３段階に分けた。これによって，英語を苦手とする児童は，ゆっくり(・=105）の速さだったから英語を聞けたり話したりできることの利点を挙げ，さらに「ゆっくりの時は英語で何を言っていたかわかった。」と言う感想があった。また，英語を得意とする児童は，チャンツの速さを変化させることで英語を発話するおもしろさ，挑戦したいという意欲がみられた。このことは，英語を苦手とする児童にとってはゆっくり英語表現を聞き，何を言っているかわかることで自信につながり，英語の得意な児童とっては，チャンツの速さを変化を楽しみながら発話活動を行うなど，速さの変化の設定が児童一人ひとりの支援につながったと捉える。

これらのことから，図３で示したような手順でチャンツ CD を作成したことは効果的だったと考えられ，図４で示すように「チャンツ活動が好き」との回答が教材チャンツ CD 活用前後で 47%から 81%に増え，自作チャンツ CD 活用をすることでチャンツ活動への意欲・関心が高まったと考えられる。

【手立て２】チャンツ CD を活用した学習展開において

教材チャンツＣＤ活用前後，単元終了後のアンケート結果や毎時間の振り返りカードの児童の感想から検証する。

【結果２】

これまでの授業実践を振り返ると，チャンツ活動を英語指導員が英文をデモンストレーションした後，児童に手拍子させながら，リピートさせるという形態をとった。

しかし本研究では，学習活動展開をチャンツを集中して聞く，チャンツで練習する，そして発話するの順とした。また，集中して聞く活動ではチャンツ CD に合わせ英語表現の例文とピクチャーカードを提示した。「もしかして，こんなこといっているのかなぁ」と類推させたり，チャンツ CD の英語表現に合わせ一致するカードを選ぶ等のクイズ形式を取り入れることで楽しみながら何度も英語を聞くことができるよう，「聞くこと」の指導の工夫を図った。これらのことが「聞くこと」の活動を充実させ，発話活動へスムーズにつながると考えた。

そこで本研究の学習展開を通して，図５では英語を練習する活動についての自己評価，図６では発話に関する自信，図７及び表６では発話活動の意欲における，児童の変容をもとに検証した。

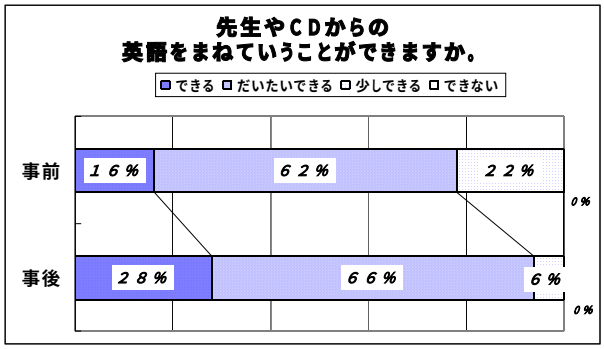


図５　練習する活動についての自己評価

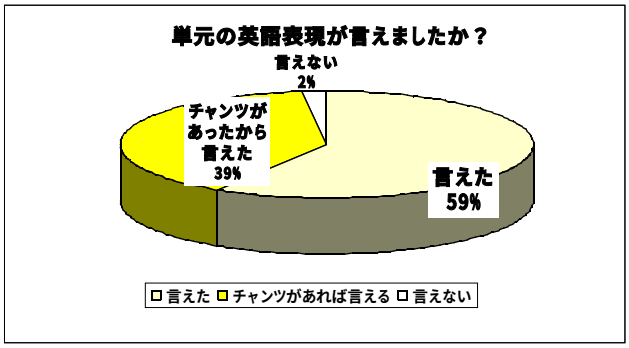


図６　発話活動に関する自信

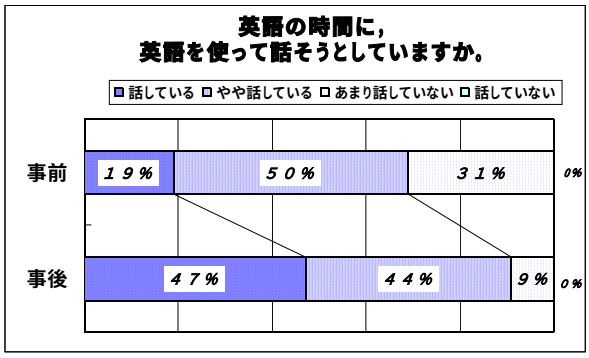


図７　発話活動への意欲

表６　発話活動への自信・意欲について

時	授業後の児童の感想 （毎時間のふりかえりカードから）
第２時	・教科の英語が言えるようになった。うれしい。 ・恥ずかしがらずに，インタビューできた。
第４時	・最初は話せないと思っていたけど，言えた。 ・面白かった。ちょっと言えるようになった。 英語って楽しいなぁと思いました。
第５時	・あと，もっと英語が話せるようになりたい！ ・今度はもっと，難しいのをやってみたい。

【考察２】

本研究では英語表現の導入としてチャンツ活動を活用し，ピクチャーカードの使用やクイズ形式を取り入れ，英語を「聞くこと」の活動の工夫を図った。児童は感想の中で「自分の英語が合っているのか，確認するような感じでよかった。」「チャンツを聞いてそれに合う絵カードを選んだりしながら覚えた。」と集中して聞く活動の良さを挙げていた。このことから，英語表現の導入としてして聞く活動を設定したことは効果的だったと考える。

また，図５の結果から英語の練習する活動についての変容をみる。先生や CD のあとの英語を「まねできる」「だいたいまねできる」と回答した児童が 78%から 94%に増え，さらに，児童の感想で「まず聞いて覚えるから次の段階に進みやすい。」とあった。これらのことから，集中して聞く活動で児童が英語をしっかり聞いたことで，練習する活動の自己評価が高ま

ったのではないかと思われる。

図６は，本単元終了の第５時のアンケート結果である。言語材料としての"Let's talk about our favorite . We like ～ the best."の２文であったが，「言えた」と答えた児童が 59%，「チャンツがあったから言えた」と答えたのが 39%でほとんどの児童が「英語が言えた，英語で発表できた」と自信を持って発話活動したことがうかがわれる。

図７では，発話活動についての意識の変容がみられる。英語を使って「話している」「やや話している」とした発話する活動意欲が 69%から 91%に増え，なかでも「話している」といった積極的な回答は 19%から 47%に増えた。このことは，児童は自信がないとなかなか英語で話そうとはしないが，集中して聞く活動では英語をしっかり聞くことでどんなことを言っているのかが大体わかり，練習する活動で自信をつけ，発話活動が意欲的になったことにつながったからだと思われる。また，表６の児童の感想からは，「英語が言えた」「英語で話せないと思ったけど，言えるようになった」といった自信がうかがえ，また，「英語を話せるようになりたい」「もっと難しいのをやってみたい」という英語を使って発話することへの積極性がうかがえる。

これらのことから，チャンツＣＤを活用し学習展開を集中して聞く，練習する，発話すると設定することで，児童は，英語表現に慣れ親しみ「英語が使える」という自信となり，発話しようとする意欲につながったと考えられる。

Ⅷ　研究の成果と課題

１　成果

(1) 那覇市小学校英語カリキュラムをもとに，５学年で取り扱う英語表現一覧表及びチャンツ CD を作成し，また，それを活用した学習展開例を作成できた。

(2) 自作チャンツ CD を活用した学習展開において，それぞれの活動をきちんと進めていくことで，児童の英語による発話活動の意欲が高まった。

２　課題

(1) 本単元の指導計画の見直し

(2) 高学年における「聞くこと」「話すこと」の指導の工夫

≪主な参考文献及び引用文献≫

小学校英語活動実践の手引き	文部科学省	開隆堂出版株式会社	2002
平成１７年度 小学校英語科学習指導案例集 第５学年	那覇市教育委員会		2005
小学校英語活動を創る	松川禮子	高陵社書店	2003
英語力幻想	金森強	アルク	2004
実践家からの児童英語教育法	中本幹子	アプリコット	2003
こども英語　レッスンに使えるチャンツの基礎キホン	阿部フォード恵子	アルク	2005